

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2018年10月20日発行

第6号 (通巻第106号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

2018年度冬期の取組みについて 組合側の主張を反映の 一方で課題も

新潟地本は10月10日に提案団体交渉に臨み、新潟支社より2018年度冬期の取組みについての提案を受けました。

444Mの事象を受けて駅間停車対策が新たに盛り込まれたほか、線区別優先順位の1位に運輸区・車両センター構内が加わるなど、この間の組合側の主張も一部が反映された一方で、実施に向けては課題も見える内容となりました。

期間・社員運用は昨年と同様に

この間の団体交渉を通じて、組合側の要求として冬期体制は12月1日からとするように求めてきましたが、例年通り12月15日以前に降雪があったため、冬期開始前に降雪があった場合に要員を含めてどの様に対応するかを考えを質しました。

支社側は、例年の降雪状況を踏まえ期間を検討したとして、冬期前に降雪があれば支社企画部門

が一体となって対応をすべく回答しました。また、テンポラリースタッフについては昨年と同じく11月中旬に教育を行い、15日以前に降雪があった場合は日々雇用で対応するとの考えを示しました。

テンポラリースタッフの雇用期間を12月1日から20日からとした駅もあることに対する考え方を地本交渉団が問うと支社側は、現場・駅長と打ち合わせ



乗務員が除雪依頼をしました。

「前だから対応できない」と断られた昨冬期の事象に

簡易型乗用除雪機械を新規導入

昨冬は本線の除雪が終わりつつも車両センターの除雪が終わりずに入出区が出来ず、列車運行に支障をきたす事象が発生したため、除雪の線区別優先順位の1位に運輸区・車両センター構内を加えたとしました。

また444Mの事象を踏まえて、駅間に停車した列車の直前まで除雪を行う早期救済することを目的として簡易型乗用除雪機械「とらん丸」計5台を配備し、有効活用として車両センター構内等の除雪

ついで指導は徹底されたのかを問うと支社側は、しっかり情報強化を図ったとして、輸送、旅客、設備など打ち合わせを図り対応できるようにしていくと回答しました。

冬期の社員運用計画は昨年度と同じとされました。運用数は「冬期体制において標準数に加え必要となる要員数」であり、現在員が標準数より多い場合には提案した運用数と送り込む人数は一致しないとしました。

3月17日までとされた越後湯沢の多客対応については、スキー客で3月一杯混雑した昨年の実態から、期間を伸ばすことは出来ないかを質すと支社側は、気象状況で延期はありうるとなりました。

「とらん丸」の財産管理には保険技術センターであり、現場判断により車両センターの社員も使用するとしました。

具体的には誰が扱うのかを質すと支社側は、教育・訓練を受ければ扱えるものであり、現場での判断であるとしました。現場判断でグループ会社社員も扱うことがあるのか質すと支社側は契約内容に関わることであり検討したいとしました。誰でも扱えるという位



置つてであり大きな事故につながるかねないことから交渉団は、教育の確実な実施を求めました。支社側は、教育は実施するとする一方で教育期間や実際の運用については未定であるとして、導入にあたり未だ不確定な部分が多いことが明かになりました。

444Mの事象を踏まえて、駅間停車発生時は「とらん丸」の活用をはじめ除雪作業とお客さま救済を並行して実施するとしました。また全員の同時救済に拘らずバスやタクシーを活用するとともに、行政機関や自治体との連携を図るとしました。駅間停車の発生防止策としては、昨冬に雪を抱えて止まった箇所を中心に雪況監視カメラを40箇所増配備するとしました。雪害による倒木が予想される場合は関係箇所と指令が協議し、迅速な警戒体制を取るとしました。支

社側は、基本的には30cm以上の降雪であり、イベントやセンター試験などで基準より低くても対応を取ることがあるとしました。このほか、窓ガラス入疵対策として「しらゆき」全編成への床下保護フィルム貼付、大雪時の新潟駅での分割休止や直通運転休止などの運用変更実施、長岡駅消雪用井戸掘替え実施や上越線塩沢駅などへの軌間内消雪シート新設など、この間の組合側の主張が反映された一方で、実施に向けては課題も見え内容となりました。冬期に向けて職場から議論を創り出していきます。

労働組合のたたかいを 愚直に推し進めよう!



新潟支部 第6回定期大会

9月22日、新潟駅大会室において第6回定期支部大会を開催しました。120名を超える組合員が結集し熱気ある大会となりました。

質疑では11名の代議員から職場での実践に基づいた発言がありました。1日まぐるしく変わる情勢の中で、「会社提案」社員周知、「実施ありき」の現状に歯止めをかけるために労働組合として職場からたたかいを創り出していくこと、現場から声を上げ要求へと高めて団体交渉を通じて改善を図っていくという労働組合にしか出来ない取り組みの実践を愚直に進めていくことを確認し、新潟支部の方針と今後の活動をより鮮明なものとする定期大会となりました。

(新潟支部 投稿)

昨冬を踏まえ新たな施策も実施

444Mの事象を踏まえて、駅間停車発生時は「とらん丸」の活用をはじめ除雪作業とお客さま救済を並行して実施するとしました。また全員の同時救済に拘らずバスやタクシーを活用するとともに、行政機関や自治体との連携を図るとしました。駅間停車の発生防止策としては、昨冬に雪を抱えて止まった箇所を中心に雪況監視カメラを40箇所増配備するとしました。雪害による倒木が予想される場合は関係箇所と指令が協議し、迅速な警戒体制を取るとしました。支